# 「真のお父様が願われる真の後継者は誰か?」

## 真のお父様の願われる真の後継者は誰か？

徳野会長の「真の父母様の一体不可分を示す８つの根拠」を公正、中立的な立場で見ましょう。
「真のお父様が願われる真の後継者は誰か?part１」
「真のお父様が願われる真の後継者は誰か?part２」 完結編

旧統一教会にとって最も重要なこの問題に対し、公正中立な立場で書かれている元ナショナルリーダーの上記小論が最も説得力があり、旧統一教会の食口ならば、誰もが一度は目を通さなければいけない必読の内容であるため、ここにその小論をできるだけ簡略にまとめてみました。

真のお父様に直接に侍り、共産圏の地下伝道活動で投獄され迫害されながらも、常に神様がともに居り、守ってくださり、真のお父様のみ言を命として歩まれた元ナショナルリーダーの、公平、中立的に分析した小論。み言に対し常に謙遜に対してこられた大先輩であるだけに時系列に従い、客観的に後継者問題を理解し解説されています。

後継者問題においては、この元ナショナルリーダー以上に正確で、説得力ある解説に出会ったことはありません。できるだけ多くの食口の方にこの小論を読んで頂くため、今回ここに３つの小論を簡略にまとめてみました。このまとめを一つのきっかけとして、次に元ナショナルリーダーの小論を読んで頂ければ幸いです。

### 1、『真のお父様が願われる真の後継者は誰か?』

### ★み言を部分的に抜き出し、正当化のために使う家庭連合

ハドソン川にて（2001年4月21日、アメリカ）

私は45年前に、統一教会と出会い、原理のみ言葉を学びメシア・文鮮明氏と会う機会を多く持った。お父様と二人きりで何時間もニューヨーク・ハドソン川のほとりで魚を釣ったり、一緒に食事をしたり、語らい、質問もした。

この心情の絆を持ち共産圏の地下伝道活動に行った。何度も殺されそうになり、投獄されそうになり迫害されたが、いつも神様が共にいて下さり、それらの危機を奇跡的に乗り越えることが出来た。それは事実と真実を追求してきたからだと信じている。真実を語り追求する者には神様は共にいて下さるのである。それは神様自身が真実なお方だからである。

この45年間、常にお父様のみ言葉が私の命であり、み言葉によって生かされてきた。
それ故に、私はみ言葉の前には謙虚であり続けてきた。

今日の真の家庭混乱の原因のいくつかは、私たち食口が神様の復帰摂理とお父様のみ言葉に対して無知であり、神様に対する畏敬の念の欠如であり、そして、我々の子孫に対する無責任から来るものである。そして、この混乱で最も恥ずべき事は、お父様のみ言葉を利用して自己の主張を正当化している人達がいる事である。

この様なお父様のみ言葉の利用は私たちの身近でも時々見かける事がある。勿論、本来あってはならない事だが、教会の説教者の中には自分の意見、主張を聖書やお父様のみ言葉を引用して都合よく解釈し、自己正当化するのである。

聖書やお父様のみ言葉には神様の歴史的摂理性があるゆえに、部分的に捉えるのではなく、その全体像と個別事項を「時系列的」に沿って相互理解されなければならない。
例えば、私たちには「御旨の道」と言う小冊子がある。それはお父様の珠玉のみ言葉であり、丁寧に短文・小冊子としてまとめられているために、読みやすく、覚えやすく、持ち運びに便利である。また、それぞれのみ言葉から私たちは多くの霊感を受けているのである。
しかし、これらの短文をもっと深く、摂理上のみ言葉であると理解していくためには、短文が書かれてある全文を読み、お父様が何時、何処で、何のために、どの様な状況下で語られたのかという事情や歴史的背景を知らなければ、より深く真の意味を理解出来ないのではないだろうか？

聖書やお父様のみ言葉には神様の歴史的摂理性があるゆえに、部分的に捉えるのではなく、その全体像と個別事項を「時系列的」に沿って相互理解されなければならない。

大きな摂理歴史の流れを無視して、お父様のみ言葉を絶対的権威として用い、部分的に抜き出して自己の主張を正当化するのは言語道断であり、食口を誤った方向へ導くものである。
この事に対して家庭連合の指導者たちは永遠、霊界と言う基準において食口たちの永遠の命に責任を持つことが出来るのであろうか？一般の信者に真実を伝えるべきであろう。

そういう意味では、家庭連合派、郭・顕進様派、サンクチュアリ教会派はそれぞれ一般の信者には事実、真実を伝える義務がある。特に、家庭連合本部はお父様のみ言葉を部分的に引用して、お母様が正当な後継者であると詭弁を弄する事に対して同意することは出来ない。

これらを公平、中立的に併記、検討し、それらの引用したお父様のみ言葉の背景も説明するべきである。

## ２、真のお父様の願われた後継者は韓お母様か？

### ★「真の父母様の一体化」について

2012 年 9 月 3 日、お父様は聖和された。その後、世界平和統一家庭連合（旧統一教会）はお父様は霊界に行き、地上にいるお母様を協助し、一体化していると教育した。そして、「お母様を絶

対中心として一体化するべきである」と。

しかし、徐々に、お母様が話される多くの事柄がお父様在世中に話されたみ言葉と多くの点で食い違っていたり、お父様がしてはならないと言われた事をお母様は平気でするのを見て、多くの信徒は「お母様とお父様は本当に一体化しているのか？」と言う疑問を持つようになった。

家庭連合は一貫して「お母様とお父様は一体化している」と主張し、本部から出される全ての方針は「一体化」が、その根源にある。即ち、「お母様が言われる事はお父様が言われる事であり、お父様の意志である。」と、本部の論理は全て、この様に構成されているのである。

そこで、今回は、「真の父母様は一体化しているのか？」
「お母様は完成したのか？」という二つの疑問について、お父様のみ言葉を中心に論じたい。

家庭連合本部（日本）はお父様のみ言葉を引用して、「お母様を絶対中心として一体化」すべきである事を強調した。本部が引用した最初のお父様のみ言はこれである。
「**伝統はただ一つ！真のお父様を中心として、他の誰かの、どんな話にも影響されてはいけません。先生が教えたみ言と先生の原理のみ言以外には、どんな話にも従ってはならないのです。今、先生を中心にしてお母様を立てました。先生が霊界に行ったならば、お母様を絶対中心として、絶対的に一つにならなければなりません。今、お母様が行く道はお父様が今まで立てたみ言と説教集を中心として、行かなければならないのです。他の言葉を述べるのを許しません。**」（「祝福」1995 年可記号、p68）

家庭連合は、このお父様のみ言葉を引用して、何を言いたいのか？それは、「**今、先生を中心にしてお母様を立てました。先生が霊界に行ったならば、お母様を絶対中心として、絶対的に一つにならなければなりません。**」と言う部分である。

しかし、家庭連合はこの文章の前後を全く無視している。
お父様はお母様と信徒に、この文章を条件として付け加えました。「**他の誰かの、どんな話にも影響されてはいけない。お父様のみ言と原理以外には、どんな話にも従ってはならない。お母様が行く道はお父様が今まで立てたみ言と説教集を中心として、行かなければならないのです。他の言葉を述べるのを許しません。**」もし、この条件に沿ったお母様の言動であるならば、問題はないのである。

しかし、この条件を示すみ言に照らし合わせれば、「お母様は天聖経を改竄し、コピペした真の父母教を作ってはならないし、家庭盟誓の変更、天一国国歌の変更、原理講論の創造原理や堕落論の変更、独生女論即ち、自己の無原罪誕生を主張したり、お父様の無原罪誕生を否定、16 歳の時に無原罪になり、メシアになったとメシアとしてのお父様を否定してはならない・・・その他。」という事である。

お父様が提示した条件に反している事をお母様がしていることが問題なのである。

## ★韓お母様が後継者だとするみ言を検証

家庭連合やお母様を支持する人々は下記に示す、お父様のみ言を引用して、お母様は、お父様の「後継者」「お母様とお父様は一体化」である事を証明しようとし、信徒を混乱に陥れた。
お父様のみ言によると、

「これからは先生がいなくても、お母様一人でみ旨に何の支障もないと言うのです。･･･ですから、先生が一人でいても、真の父母の代身であり、お母様が一人でいても真の父母様の代身です。」
（1990 年 3 月 27 日）

「お母様は私の影のようです。ついてまわる影のようです。私は実体を持った主体の教主であり、お母様は対象の教主です。それで、私は第一教主、お母様は第二教主です。」
（1990 年 5 月 6 日）

「私が死んでも（お母様には）統一教会を導くことができる能力もある。自分一代で、この複雑な恨の峠をすべて清算するという決心が私よりもお母様がもっと強い。」
（1991 年 10 月 19 日）

「お母様は真の母になり、真の妻になり、真の娘になる。その三つをすべてしなければなりません。一つするのも大変ですが、お母様はそれをすべて成し遂げました。」
（1992 年 7 月 10 日）

「霊界に先生が行ったとしても、お母様が地上にいれば、霊界と地上界の統一圏ができるので、いつでも、お母様がいる地上に来て一緒に暮らすことが出来るのです。」
（1993 年 10 月 15 日）

「お母様を中心として、皆さんが一体になっていかなければならない時が来ました。もう、先生がいなくても、お母様が代わりにできる特権を許諾したというのです。」
（1994 年 11 月 27 日）

「真の父母というのは二組はあり得ません。」
（1995 年 1 月 1 日）

「お母様、表彰される。」
（1999 年 6 月 14 日）

ここに記されている日付を見ると、全て 1990 年代のお父様のみ言を引用したものである。この時期は 1990 年 3 月 27 日に第 31 回「父母の日記念礼拝」があり、「女性全体開放圏宣布」があった。そして、女性連合が出発し、1991 年 9 月に東京大会、その後、1992 年 4 月に、「世界平和女性連合」が創設された。つまり、<u>お母様がお父様によって表彰されるまでの 10 年間に話されたみ言であり、お母様を励ますためにお母様や信徒に向けて話されたものである。決して、聖和が近づいた事に対する切実な準備としての後継者を示すためのみ言ではない</u>。

さらにここで、家庭連合本部がお母様は後継者であると説明する時に引用するお父様のみ言葉の幾つかを、より詳しく見てみることにする。

「**今では、もう先生がいなくても、お母様だけいればみ旨に何の支障もないというのです。今までは、女性が天地を代表した摂理の代表者として立つことは出来なかったのですが、はじめて、父母の愛を中心として、一体的理想を中心として、お母様を中心とした女性全体解放圏が地上に宣布されたと言うのが、けさの式典だったのです。・・・・・それ故に、先生が一人でも真の父母様の代身であり、お母様が一人でも真の父母様の代身です。・・・・・**」
（第 31 回「父母の日」記念礼拝、1990 年 3 月 27 日。真の父母様の生涯路程⑩ p348－p349）

お父様は「**今では、もう先生がいなくても、お母様だけいればみ旨に何の支障もないというのです。・・・・**」と言われましたが、何故お父様はこの様なことを我々食口に言われたのであろうか？それは「世界平和女性連合」創設（1992 年）に向けて、お母様や食口たちに向けた激励の言葉であったからである。

このみ言葉（1990 年 3 月 27 日）について食口の皆様に重要な事をお知らせしたい。家庭連合本部はこのみ言葉を通して、「真のお父様は真のお母様を第二教主として立てられました。」（真の御父母様の生涯路程⑩ p347、レジメ）と言い、お母様は後継者であると言いたいのだが、実は、家庭連合が引用したみ言葉には続きがある。家庭連合本部はこの重要なみ言葉を自己の主張を正当化する為に、食口を騙すために意図的に削除したのである。
是非、各自で確認して頂きたい。（真の父母様の生涯路程⑩ p347－p352）

その内容は『**・・・・・お母様が一人でも真の御父母様の代身です。「レバレンド・ムーンが古希を過ぎて七十を超えたのだから、後継者が出てくるのではないか」という、そのような言葉は片づけてしまうのです。レバレンド・ムーンの夫人は四十七才にしかなっていません！ですから、今、先生が第一教主、それからお母様が第二教主だというのです。・・・・**』

このみ言葉を語られた時点（1990 年 3 月 27 日）では、お父様は後継者について具体的には言及されておらず、寧ろ「そのような言葉（後継者について）は片づけてしまうのです。」と言われ、後継者問題について話される事を拒絶されている。

同様に、家庭連合本部は「先生は第一教主、それから、お母様が第二教主だというのです」を引用して、お母様は後継者であると強弁するが、お父様自身が後継者問題について話される事を拒絶しているのに、どうして、この一文をもってお母様は後継者であるとお父様は言われていると言えるのであろうか？

また、上記の「先生が第一教主、それから、お母様が第二教主・・・・・・」（1990 年 3 月 27 日）と話された後、同年 5 月 6 日には、お父様は「お母様は私の影のようです。ついてまわる影のようです。私は実体をもった主体の教主であり、お母様は対象の教主です。それで、私は第一教主、お母様は第二教主です。」と言われている。

第一教主、第二教主と言う概念は主体と対象の関係を示されたものであり、決して後継者指名をした表現ではない事が明白である。少し付け加えるならば、「お父様は実体をもった主体の教主であり、お母様はついてまわる実体のない対象の教主である。」と言われているのである。これもまた、お父様がお母様を後継者指名したみ言葉ではない。このみ言葉も摂理的背景を考えたならば「女性全体開放圏」宣布され、女性連合出発のためのみ言葉であった。

お母様は 1999 年 6 月 14 日にお父様によって表彰され、勝利を宣言されたのであり、1990 年の段階で勝利もされておらず、個性完成もされていないお母様が後継者指名されるはずがないのである。

1991 年 10 月 19 日のお父様のみ言葉を引用して家庭連合本部は「**私が死んでも(お母様には)統一教会を導くことができる能力もあるので、お母様が説教する時が来るのです。・・・・・そのような時は(お母様に)絶対服従しなくてはなりません。・・・・・千度決心すれば、(み言葉によると、千度ではなく一度である)最後まで自分一代でこの複雑な恨の峠をすべて清算するという決心が、私よりもお母様がもっと強いのです。・・・(お母様は)すべて掃除することが出来る主人になったので、先生よりもお母様をもっと重要視することができる統一教会の食口になれば福を受けるのです。**」(真の御父母様の生涯路程⑩ p351－p352、レジメ)

このみ言葉も決してお母様を後継者指名したものではない。このみ言葉の中にもある様に「お母様が説教する時が来るのです。」と明確にお父様は 1991 年 9 月 17 日に行われた「アジア平和女性連合」東京大会後の「世界平和女性連合」創設(1992 年 4 月 10 日)を念頭に置いるのである。

また、上記の「・・・・そのような時は(お母様に)絶対服従しなくてはなりません。・・・・・」と引用しているが(お母様に)ではなく(お母様は)である。そうでなければ、文全体の辻褄が合わない。(お母様に)と挿入すれば、食口たちはお母様に絶対服従しなくてはなりません。となる。
しかし、(お母様は)と挿入すれば、お母様はお父様に絶対服従しなくてはなりません。となり、文の意味が全く異なってくる。その直後の文を引用すれば「お母様にも、しなければならない責任分担の 5%が残っているのです。」と続くのである。

また、家庭連合本部は「私にどれほど教育を受けたでしょうか。『私に似なさい。私に似なさい。』と言って来たのです。」や「お母様は生きている間に孝進を完全に訓練しなければなりません。3 人の息子を訓練させなさいと指示しています。」など、同じ日に話されたみ言葉を意図的に削除している。(お母様に)と(お母様は)はたかが(「に」、と「は」)の違いであり、私の真の父母様に対する絶対服従の信仰姿勢は変わらないが、私は家庭連合本部がそこまで姑息な手法を使って、お父様のみ言葉を改竄したいのかと言いたいだけである。

## ★韓お母様は後継者ではないことを示すみ言

1999 年 6 月 14 日、母子協助時代 7 年路程が終了し、お母様の世界 80 ヶ国巡回路程勝利をもって、お母様はお父様より表彰された。そして、蕩滅時代と母子協助時代の終了を宣言され、「天地父母天宙統一解放圏」を宣布され、「長子権、父母権、王権」を天のお父様の前に奉献された。そして、新時代への移行、すなわち父子協助時代を宣布されたのである。

お母様の勝利の表彰後、1999 年 9 月 9 日 9 時 9 分 9 秒、お父様のみ言では「今までの、復帰歴史においては母子が協助してきましたが、母子協助時代が過ぎ去るのです。蕩滅の歴史は母子、オモニと息子娘が犠牲となって復帰されましたが、9・9 節を宣布して、南北が統一される運勢に入り、父子協助時代に入るのです。オモニはいなくても構いません。オモニはいくらでも探し立てることが出来ます。」(み言選集 303 巻 p264、1999 年 9 月 9 日)

「アボジと息子が一つになれば、オモニはいなくてもかまいません。オモニはどこからでもつれて来ることができるのです。分かりますか？そのようになっているのです。そのため、継母制度と同じです。継母の息子も相続圏に入るのです。分かりますか？」(み言葉選集、311 巻 p264、1999 年 9 月 12 日)

「今まで蕩減復帰時代は母子協助時代でした。これからの天国時代は父子協助時代です。オモニの意見が通らないのです。アボジの意見が絶対に通じるようになっているのです。分かりますか？統一教会も『オモニが先生よりも優れている。オモニが先生よりも優れている！』こうなるといいでしょう？オモニが先生の上か、先生の下なのか？郭錠煥！「下です」そう。そうです。」(み言葉選集 311 巻 p291、1999 年 9 月 13 日)

また、翌年 2000 年 1 月 5 日のみ言では
「国家時代を越えて、アボジを中心に連結された時、オモニではありません。これで一つになると、オモニは長子に任せるので父子協助時代に移るのです。」(み言選集 314 巻 p230、2000 年 1 月 5 日)

「母子協助の基盤の上でオモニが勝利した為、子を立てるのです。」
(み言葉選集 314 巻、p229、2000 年 1 月 5 日)

2000 年 11 月 11 日のみ言では
「ですから、直接的に、完全な愛の種を家庭的に受けて、父と息子が直系で連結されるのです。ここに、母親は必要ではありません。母子協助時代と父子協助時代は違うというのです。絶対の愛ゆえに、神様が女性を抱いて出てきましたが、そこに、相対的に立つには、絶対服従しなければならないのです。これはオモニに対する言葉です。」(456－465、2000 年 11 月 11 日)

これらは、「お母様、表彰される」すぐ後のお父様のみ言である。お母様を後継者として指名した言葉であろうか？お父様のみ言を都合良く利用して、父子協助時代に入ったお父様のみ言を無視し、自己の主張を正当化しようとするのは如何なものであろうか？

お父様は 2008 年 4 月 28 日に亨進様に「真の父母の権威移譲式」を行い、2009 年 1 月 15 日—31 日に 3 度に渡って「戴冠式」と「真の父母祝福」を伝授されました。もし、家庭連合が(韓お母様が後継者であると)強弁するのであるならば、この 2009 年 1 月 31 日以降で、お父様がお母様を「後継者」として任命したというみ言があれば、家庭連合の名誉にかけて提示するべきである。

## ★韓お母様の完成問題

お父様は 2007 年 5 月 11 日のみ言で「お母様は 2013 年 6 月 16 日までに完成しなければならない。」(天正宮訓読会)と言われている。

これは信徒にとって、驚愕的なみ言であった。1960年の御成婚から始まって、2007年5月1日までの47年間、お母様は完成していなかったのである。その47年の間に行われた勝利宣言、宣布はお母様の個性完成が基礎にはなく、お父様の個性完成と真の父母様の「条件的一体化・条件的勝利」を基に摂理が進んで来たということである。そうすると、2007年から2013年までの、たった6年間で、47年掛けて出来なかった個性完成をお母様は出来るのであろうか？

・「**真の父母様夫妻が横的に最終一体を成した。**」
2010年6月19日　午前2時20分
6月26日　午前3次25分

・「**真の父母様ご夫妻は最終一体**」
2010年11月22日
2011年2月3日

・「**すべての摂理の完成、完結、完了と最終勝利を宣言**」
2011年12月11日

また、2010年7月1日、2011年12月11日にお父様が宣布された「**最終一体圏完成宣言**」により、家庭連合が2007年に言われた事、即ち「お母様は2013年6月までに完成しなければならない。」と言われた事が成就したのである。しかし、何故お父様は何度も何度も「真の父母の一体化」を繰り返し宣布するのか？私は「真の父母は一体化」していなかったと確信した。しかし、条件的には・・・

## ★お父様とは別の道を行っている韓お母様

お父様は「**お母様に全てを任せましたが、お母様が握ったお金を自分のしたいようにしようとしています。勝手にするというのです。あなたはあなたの行きたいように行き、私は私の行きたいようにするというのです。私が朝、どれほど深刻だったか。**」
（み言選集、607巻p11、2009年1月24日）

「**オモニもこれからは私の思い通りにするという考えをしてはならないのです。『アボジも私がいなければ完成できない』、そんなことを考えてはいけないのです。**」
（み言選集、491巻p247、2005年3月22日）

これらのみ言は「お母様はお父様とは別の道を行っている。」という、亨進様の言葉を裏付けるものである。

2012年1月19日、天正宮訓読会での「事件」。ここで、お父様がお母様に対して激しく批判した。

「天地人真の父母はお父様とお母様が二人ではなく、一人である。」
「お父様とお母様は別々ではなく、一つなのである。」
「お母様はお父様の台であり、ただ食べ、周りにいるだけでは、真の母にはなれない。
「別々に動いては滅んでしまう。」、「お父様が呼んでも、お母様は返事をしない。」
「安州(お母様の故郷)と韓氏は自慢してはいけない。もし、すれば、真の母になれない。」
「私を無視して、お前たちが、私を案山子にしてはいけない。」
「お母様が独自路線を行っている。小鬼だ!」
「お母様はお父様とは違う道を行っている。」
「お前たちも全員(お母様に追従する子女様、側近、教会指導者)、お母様と一団となって違う道を行っている。こいつら!」
「お母様に従うもので、お父様が必要でないというものは、根のない小鬼だ。」
「私は、今一人ぼっちだ。私には息子も娘もいない。お母様は一人で勝手にしている。」
「お父様の話を聞かず、お母様が私に対して、私の言葉を聞きなさい。とするのはルーシェルよりもっと、恐ろしい存在だ。」
「孝進が生きている時、お父様がかわいそうだ。お母様はなぜ、お父様のみ言を聞かないで、自分の方式でするのか?と私に言ったことがある。」
「お母様は今からお父様に絶対服従しなければならない。」

これらのみ言を理解すると、2012 年 1 月 19 日まで(聖和 8 カ月前)、お母様はお父様に絶対服従しておらず、一体化せず、完成していなかった事になるのである。
このお父様のみ言葉によって、前述の家庭連合の弁明も再び霧散に帰したのである。

その後、4 月 14 日「天地人真の父母定着実体み言宣布天宙大会」特別宣布式(天和宮・ラスベガス)で蕩減の完全終了。
お父様は「天地人真の父母定着実体み言宣布天宙大会を最終、完成、完結することを、お父様の前に奉献します。」と宣言された。

6 月 5 日、4 次元入籍式(ラスベガス)「国進、享進様のアベル・カイン一体を宣布」
「真の父母の仕事は完成、完結、完了」と言われた。

お父様の最後の祈りで「私はこれを全て成し遂げた。私は全て完遂した。」と言われた。
この最後の祈りはお母様の天聖経、英語版の最後にはこの様に書かれています。
「everything will be brought to a conclusion. I have accomplished everything for this. I have completed everything .  Aju!(August13,2012)」である。
この最後の祈りは真の父母様が向かい合い、手を取りながら祈られたものである。

それでは、何故、お父様は「私は(I)」と言われたのか?ここは「私たち」または「真の父母」はと言う言葉が、お母様への感謝の気持ちと共に来るのではないか?それを、敢えて、何故「私は」だけなのか?
これは、お父様の聖和直前まで、お母様はお父様と一体化出来なかったことの証左でもある。
この「私は」の中に、「私たち、真の父母は」と祈ることのできなかったお父様の悲しみと恨みを感じるのである。

そして、2012 年 8 月 3 日の最後の訓読会で、お父様は「すべてを壊したオンマ(お母様)と金孝律は責任を取りなさい。」と言われたのである。

これらを見て、どうして、「お母様は完成した」「真の父母様は一体化している」と言えるのであろうか？この様に、「お母様の個性完成が無く、お母様とお父様の一体化が無い」ところで、2013 年 2 月 22 日（天暦 1 月 13 日）に「基元節」を迎えたのである。

家庭連合の主張と国進様・享進様・サンクチュアリ教会の主張を公平に比較して見ても、享進様が言われる様に「基元節は失敗であり、サタンに奪われた」と理解する事が正しい様に思える。

お父様は「**私が 93 歳、お母様が 70 歳で完成級の聖婚式をもつことで、すべての祝福家庭と共に完成した天地の時代に入ることが出来る。**」（2011 年 8 月 29 日、天正宮訓読会）と言われたが、***<u>2012 年のご生誕日に行われる予定の聖婚式をお父様はキャンセルされた</u>***。そして、お母様にさらに 1 年の猶予を与えられ、願われる基準での一体化を待たれた。
しかし、聖和により、完成段階の真の父母の聖婚式は果たされなかったのである。

## ⓑ後継者は真のお父様の男の子女様

## ★母子協助時代から父子協助時代へ

食口の皆様の家庭にある「家庭連合時代―主要儀式と宣布式　Ⅳ　1999 年 7 月―2001 年 1 月、父子協助時代宣言 2000 年 11 月 11 日、p602」を読んで頂きたい。その中で、お父様は「**第一次、第二次大戦を終えて第三次時代へと越えながら、すべてを埋め尽くし、ついに整備されたカイン・アベル圏、聖霊を中心として霊的な準備を連結させて、実体的基準を中心とした再臨主と一つになって、母子協助時代から父子協助時代に転換するのです。そのためには母親がいなくならなければならないのです。それゆえ、蕩滅時代の母ではなくて、直接的時代の父が母を通じて生んだ息子が相続することの出来る時代が来るのです。**」

ここで、お父様は明確に母子協助時代から父子協助時代に転換するので「そのためには母親がいなくならなければならないのです。」と言われ、お母様はいてはいけないと言われているのである。

真の家庭混乱の最大の原因は、この時代の転換、移行がお父様による「3 度の戴冠式」によって享進様に移行されたにも関わらず、お母様派が享進様に「不忠の子」「お母様と一体化していない」と言う汚名を着せて「お父様の後継者の位置」を強奪し、主管性転倒し、彼を国外追放にした事である。
しかし、同時にお父様はお母様に息子たちを一つにしなさいという使命をも与えている。

この父子協助時代は2000年11月11日、の宣布式のみ言葉を通して出発した。
お父様は「母子協助時代を経て、父子協助時代に越えていくと言う事を宣布しました。その時が何時なのか？2000年11月11日です。その日を宣布したのです。・・・・
父子だけが中心となって継代を受け継ぐことの出来る、この様な時代に入った事実を記憶する今日であることをお願いします。分かりますか？」
（統一世界、404号2004年10月号、p32）

## ★復帰摂理歴における長子権

摂理歴史は2000年以降、母子協助時代から父子協助時代に突入し、ここに「長子権」の問題が出現した。神様の復帰摂理歴史において、「長子権」は長子には資格はあるものの、彼が自動的に受け継ぐものではない。ヤコブの様に「歴史的勝利者」となった者が受け継ぐものである。

聖書や復帰原理に基づいて、「神様の摂理（中心人物）の移行の仕方」は単に、「お前は長子だから、次子だから、可愛いから・・・とか」、その様な理由で代身者、相続者、後継者、を決めているのではない。そこには復帰摂理歴史上の理由やサタンの侵入を防ぐための事情なども含まれているのである。聖書、原理講論、お父様のみ言葉を通して明確に理解出来ることは、「復帰摂理上の中心人物の代身者、相続者、後継者は必ずしも長子ではなく、その中心人物と心情的に一体化し、彼（または、神様）によって任命された人物が受け継ぐのである。当然、メシア家庭においては、直接メシアであるお父様と心情的に一体化し、お父様によって任命された子女様である。」

「後継者問題」について、もう一つ1983年6月5日、ニューヨーク・ベルベディアでお父様は「私を中心とした父母と子女と万物世界」と題して説教された。「御旨と世界」（945、11行目から）、その説教の中でお父様は後継者について話された。
「その時が過ぎれば、先生の後継者が一人立ちます。・・・・・先生もお母様もみな知っているのです。その人が決定されたのちには世界は法的時代に入ります。・・・・・その法にかからない後継者を探して永遠に続くのです。・・・・」

このみ言葉の中で「・・・・先生もお母様もみな（その後継者を）知っているのです。・・・」とあるので、このみ言葉の中でお父様は明らかに、「お母様を後継者から外している」のである。
また、英語の「御旨と世界」(GOD’S WILL AND THE WORLDp651)には明確に“After that registration is done,  True Father will appoint his successor.・・・・They must all unanimously accept him.・・・・・”とあり、お父様の後継者は、明らかに”him”（男性）であり”her”（女性）ではない。お父様の御心の中には後継者は決してお母様ではなく、男子の子女様の一人であることがここでも明白である。

## ★真のお父様の息子が後継者

お父様の息子が後継者として相続していく時代に入った。そのために2000年以降のお父様の最大関心事項の一つは男の子女様たちの中から後継者を探す事であった。この様な神様の摂理歴史の要望が背景にあるゆえに、ここに摂理的必然性として後継者問題が浮上してきたのである。

この頃、皆さんがご存知の様に、お父様は「これから7年間の間に後継者を探さなければならない。」と言われた。そして、2003年2月6日、「天一国開門祝福結婚式」が挙行された。即ち、真の父母様の二度目の結婚式である。

翌年、2004年3月22日(旧暦)亨進様の3番目の息子である文信俊様が誕生された。そして、お父様は信俊様を後継者として決定された。お父様は大変喜ばれ、いつも、どこに行く時でも信俊様を連れて行かれたのは誰でも皆が承知している事実である。それ故に、2000年以降、お母様が後継者であると誤解を与えるようなお父様のみ言葉は一切ないのである。これを良く理解して頂きたい。

## ⓒ原理的に見た長子、文顯進様

### ★正当な後継者の資質

三男の顕進様が正当な後継者なのか?それとも、七男の亨進様が正当な後継者なのか?お父様のみ言葉を元に論を進めて行きたい。
特に、私が赤線を引いた部分で顕進様と亨進様が取った行動を当てはめ、比較して神様・お父様の復帰摂理的観点から公平、中立的に分析して行きたい。それによって、正統なお父様の代身者、相続者、後継者が理解出来るであろう。

韓国の儒教国家としての伝統、習慣などから見て、お父様は長子の立場にある顕進様を「後継者候補」として選ばれた事は、至って自然である。それ故に、顕進様はW-CARP世界会長、家庭連合副会長やアメリカ総会長などの重職を歴任されてきた。だからと言って、お父様は韓国の伝統や習慣によってのみ後継者を選ばれるだろうか?お父様はメシアであるゆえに神様の心情や事情、即ち、人類の復帰摂理歴史の中で後継者を選ばれる方を選択する。

### ★文顯進様の後継者問題

先ず、顕進様について見てみよう。

私は顕進様は一指導者としての能力、実力を備えた方だと信じている。
しかし、メシアの後継者であるための最大の資質は神様や摂理的中心人物としてのお父様と一体化出来たか否か、神様やお父様の前に「自己否定、自己献祭」を出来るか否かである。何故ならば、摂理を進める為に神様と絶対的授受作用をし、神様の絶対プラスに対して絶対マイナスの立場に立たねばならない。神様から「完全な自己否定」を要求されるからである。それが出来ない方に貴方と貴方の家族の全生命と永遠の命を託す事が出来るのであろうか?

一般的に言う偉大な指導者の資質とメシアの後継者・指導者としての「資質」は異なる。メシアの後継者には「信仰心、自己否定という資質」が必要なのである。

2009年3月8日、顕進様は東草で真のお父様の願いを拒否された。
お父様は顕進様に「一年間、公職活動を一時中止し、原理を学びなさい。そして、私のそばにいなさい。」と言われた。何故、お父様は顕進様に「私のそばにいなさい。」と言われたのか？もし、顕進様を後継者として考えていたならば、当然、「お父様の再臨主としての姿、真の父母としての真の愛を悟り、創造本然の理想家庭の実現、伝統、世界摂理、・・・・・全て、お父様がメシアとしてされてきた事を受け継いで貰いたい」と思われた事は自然なことである。
しかし、顕進様は別の事情を優先し、お父様を不信し願いを拒否されたのである。

この行為はアダムが神様のみ言葉を守らず不信し、拒否した事と同じであり、神様と心情的に一体化出来なかった事と同じである。カインが神様を不信し、ハムが父ノアを不信し、別の事情を優先し、一体化出来ずに後継者になる機会を失ったのである。

2009年8月過ぎ、顕進様はGPFを推進する為に、UCIの理事を解任し理事会を掌握した。
9月10日、お父様は顕進様に「UCI」をを元に戻しなさいと言われた。顕進様は「分かりました」と言われたが、実行はされなかった。実質的な拒否である。そして、これがお父様と顕進様の最後の会話となったのである。郭・顕進様派はお父様に反旗をひるがえす事によって、お父様は顕進様を追放された。

12月10日—14日、顕進様はお父様に手紙を書くも、公式許可を得られずにフィリピンで大会を開催した。

また、顕進様は天法を犯し、神様に属する公的資産・献金を強奪、横領した。これはどの様な言い訳をしても弁解の余地は無い。歴史的事実として残り、大変残念なことである。

2010年6月5日にはお父様は郭・顕進様グループを含めて「異端者、爆破者」宣言をされた。

2010年11月22日、お父様は「天地人真の父母定着実体み言宣布天宙大会」の講演でこの様に話された。「**また、最近では共産主義者たちのいたずら（他の訳;悪だくみ）で、私の手を離れたワシントン・タイムスも再び戻ってきました。これが奇跡でなく、何が奇跡と言うのでしょうか？**」（Today's world Japan、2011年1月号）

この講演で、お父様は郭・顕進様グループの事を「共産主義者たち」と呼んでいる。共産主義者とは神様に敵対するサタンである。神様とお父様にとって郭・顕進様グループに所属する食口たちは敵でありサタンであると言われている事に対してどの様に思っているのだろうか？また、お父様はボケていたとして自分たちを正当化するのだろうか？

また、お父様は2011年7月末、アラスカのコディアック・ノースガーデンにて、郭・顕進様グループを「盗賊」や「郭一家と顕進は私の意に従っていない」とまで言われている。
（www.youtube.com/watch?v=NO5r8-z5SSc）

顕進様派の皆様の中には、お母様が「顕進は絶対性に問題がある。」（2009 年 3 月 8 日、天正苑）と、お父様に告げ口された。これが原因でお母様は強権勢力、国進様、亨進様たちと共に事実無根の罪を顕進様に負わせ、貶め、引きずり落とした。だから、亨進様の「戴冠式」や後継者任命は無効であると批判している。本当なのだろうか？

これが事実だと言うならば、私が提示した「略史」を見て貰いたい。
お母様が天正苑でお父様に告げ口されたのは、2009 年 3 月 8 日である。しかし、亨進様が受けた「後継者任命」は 2008 年 4 月 16 日であり、「戴冠式」、「真の父母様の祝福」の伝授）」は 2009 年 1 月 15 日、30 日、31 日である。
どう見ても、辻褄が合わない。「後継者任命」「戴冠式」「真の父母様の祝福」の伝授はお母様のチクリ以前に行われたものである。顕進様はお父様に裏切られたと思っているかも知れないが、事実は顕進様や顕進様派の皆様がお父様を裏切ったのである。

## ⓓ真の後継者は文信俊様、文亨進様

### ★後継者は文信俊様

今度は亨進様について見てみよう。

2000 年以降、お父様はこれからの 7 年間で後継者を探さなければならないと言われた。
2003 年 2 月 6 日「天一国開門祝福結婚式」（二度目の結婚式）が挙行された。その翌年 3 月 22 日（旧暦）に亨進様の三男の信俊様が誕生された。そして、お父様は「やっと、生まれた。」と喜ばれ、後に信俊様を後継者として決定された。

その後、2008 年 4 月 16 日の訓読会でお父様は亨進様を後継者として任命されたのである。ここで、何故、お父様は信俊様と亨進様を後継者として決められたのか疑問に思われるであろう。亨進様は信俊様の後見人（役）なのである。（国進様も）

ここに顕進様派の大きな誤りと誤解がある。代身者、相続者、後継者は信俊様なのである。亨進様はお父様によって二代目王として任命されながらも、信俊様に三代目王を自然な形で譲るための後継者なのである。信俊様は三代目王様として復帰摂理歴史完成者の立場にあるのである。
復帰摂理上、神様の心情は二代目・亨進様、三代目・信俊様と共にあるのである。

ここで、付け加えなければならない事は、お母様は失敗をした。そのために、可哀想にも亨進様夫人・ヨナ様がお母様の失敗を蕩減復帰する立場に立ってしまった。

# ★文亨進様の後継者問題

ここでは、復帰摂理歴史の中における、お父様のみ言葉と亨進様の後継者問題について述べたい。

前述した様に、お父様は明確に2000年以降、母子協助時代から父子協助時代に移行するので、「そのためには母親がいなくならなければならないのです。」とお母様の役割の終了を宣言された。その後、摂理の移行と同時に必然的に浮上してきたのが後継者問題であった。

2008年4月16日、お父様は訓読会で「**今日、この時間を中心として(権威の)命令系統を一つに統一しなければなりません。統一教会全体において世界や韓国を中心として中心が大きくなるから、今後(全部)私がしてきたことを代わりに任せようと思うんだね。今、食口たちの中で信仰面から全ての面において亨進の水準を越える人はいません。分かりましたか?(彼を)任命するのです。**」
(youtube 「文亨進様をお父様が任命された訓読会。2008年4月16日、韓国語」)

この動画の中で、三男派の重臣・郭錠煥氏自身も亨進様を後継者にすることをお父様の前に3度に渡り同意しているのである。

そして、2日後の2008年4月18日、亨進様は世界会長に就任された。
(youtube 「文亨進世界会長就任式」)

ここで、お父様は「**…苦労して真の父母の解放釈放の相続権を受け継いで忠孝の道を受け継ぐことのできる息子娘となれますよう許諾してください・・・・真の父母に侍ったそのような場において、全てを代身して侍ることのできる代身者、相続者の権限を受け継ぎ・・・**」と亨進様、ヨナ様のために祈祷されているのである。

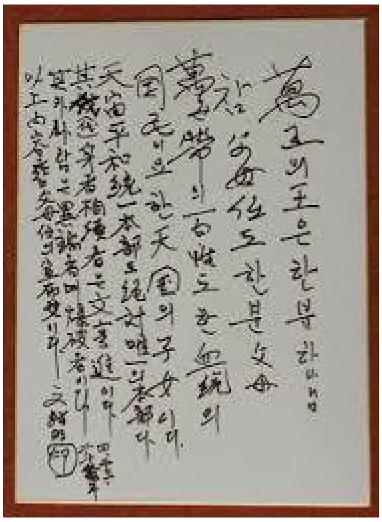
その後、亨進様は2度に渡って、真の父母様に代わって祝福式を挙行された。
2008年7月6日と10月12日には文亨進様・ヨナ様夫妻は「太平聖代神文明平和祝福結婚式」で主礼を努めた。

2009年1月15日と31日には「**天宙天地人父母様安息圏安着即位式」において、お父様は亨進様に対して「私は私の後継者に祝福を挙行する権限を賦与する。**」と宣言された。

「真の父母様の祝福の伝授」
(youtube 亨進様ご夫妻への「真の父母様の祝福」の伝授)

2009年1月15日、お父様は亨進様夫妻に対して韓国で代身者、相続者、後継者としての「戴冠式」を行い、1月30日と31日には韓国とニューヨークで同様の「戴冠式」を挙行さ

れ、合計 3 回にも渡って「戴冠式」を亨進様夫妻にされたのである。



これがサンクチュアリ教会派が亨進様に対して「2 代目王様」と呼ぶ所以である。

その後、お父様は 2010 年 6 月 5 日「その代身者、相続者は文亨進である。(自分が相続者であると言う)他の者たちは異端者であり、爆破者である。」と宣言された。

(嘗て、一部の人はお父様は亨進様に代身者、相続者と言われたが、後継者と言われていないと亨進様を貶めたが、上記の様に、お父様はこれら 3 つの名詞を言われているのである。因みに、代身者、相続者はユダヤ・キリスト教・宗教的表現だが、後継者は一般的・世俗的表現である。)

ここにおいて、亨進様の代身者、相続者、後継者としての立場が決定したのである。お父様は世界的に「亨進様が代身者、相続者、後継者であること」を認知させるために数々の儀式を亨進様のために挙行され、亨進様は復帰摂理歴史上、神様が共にいる「摂理的中心人物」になったのである。

亨進様以外にお父様によって正式に代身者、相続者、後継者として「戴冠式」を受け、認められた者がいるのだろうか？もし、いるのならば教えてほしい。一度メシアとしてのお父様より代身者、相続者、後継者として権能を受け、祝福された者に、他の誰かがその権能を取り下げる事が出来るのであろうか？
旧約聖書 27 章にある様に、父イサクがヤコブに与えた祝福は父イサクでさえも変えることが出来ず、エソウも変える事は出来ない。エソウが神様からの祝福を得る方法は、ただ一つであった。ヤコブと一体化する事であるとは原理が教えているところである。
同様に、メシアとしてのお父様が亨進様に代身者、相続者、後継者として与えた祝福とその権能は誰も奪う事は出来ない。お母様さえも、顕進様さえも奪う事は出来ないのである。

では、お父様は同じ儀式をお母様や顕進様にされたのであろうか？答えは否である。

前述した様に、**2009 年 3 月 8 日、東草で、お父様は顕進様に「一年間、公職活動を一時中断し、原理を勉強しなさい。私のそばにいなさい。」と言われたにも関わらず、顕進様はそのお父様の願いを拒否された。心情的に一体化しなかった**のである。

その後、**お父様は世界会長である亨進様に同じ事を命じられた。亨進様は直ぐに、お父様の願いを受け入れ、世界会長としての多忙なスケジュールを全て白紙に戻し、お父様と心情的に一体化した**のである。そして、お父様のそばで約 2 年間行動を共にすることになったのである。
亨進様はお父様の言葉を受け入れ、願いを受け入れ、メシアとしてのお父様と心情的に一体不可分の立場に立たれたのである。

これらの出来事は全世界の食口が知っている事実である。この二人の行為、即ち、顕進様と亨進様がメシアであるお父様に対しての行動は、神様やお父様の目から見て、復帰摂理歴史から見て、どちらが正しい判断をしたかは一目瞭然である

## ★カインの立場を勝利された文國進様

お父様は長子の顕進様に偉大な勝利したカインになって貰いたかったのは間違いない。その為に、2008 年 4 月 6 日、第 49 回真の父母の日（ハワイのキングガーデン）で、お父様は顕進様をカイン、国進様をアベルの立場として、お母様と共に 3 人が一つになったという特別な儀式を宣布された。

その後、顕進様がお父様と心情一体化出来なかったと言う不信仰と失敗（特に、東草事件）により、お父様は「先の特別な儀式」を復帰しなければならなかった。そして、その偉大なカインの立場は国進様にとって代わった。

2012 年 6 月 5 日、お父様は再び、国進様をカイン、亨進様をアベルの立場として「国進、亨進様のカイン・アベルの一体化を宣布」されたのである。そして、お父様は「真の父母の仕事は完成、完結、完了」と宣布された。
アベルの立場の亨進様とカインの立場の国進様が一体化する事によって、既に、お父様と亨進様の間で立てられた信仰基台の上に実体基台が完成され、メシアのための基台が成立した。これによって、神様の摂理が進展するのである。

亨進様は摂理的中心人物であるメシア・お父様と心情的に一体不可分の立場に立つ事により、お父様の勝利を受け継ぎ、摂理的中心人物、代身者、相続者、後継者となった。
その摂理的中心人物・アベルである亨進様とカインの立場の国進様は一体化することにより、神様が人類歴史を通して求めて来られた「実体基台」が造成されたのである。
それ故に、亨進様も国進様も復帰摂理上、「歴史的な摂理的勝利者」なのである。
その勝利により、神様はアベルを祝福し、アベルと同じ祝福をカインは受けるのである。カインが受ける祝福はアベルとの一体化によって受けるとは原理が教えるところである。

復帰摂理から見て、お母様も顕進様もメシアとしてのお父様の後継者ではなく、摂理的に後継の仕方を誤った事による復帰摂理上の失敗者なのです。

亨進様は後継の正しい仕方、つまり、「メシアとしてのお父様と心情的に一体化された」ゆえに、亨進様は復帰摂理上、正しい後継者なのです。

| 「1990年3月27日—2015年3月11日までの略史」 | | |
|---|---|---|
| 1990年 | 3月27日 | 第31回「父母の日記念礼拝」<br>父母の日30年を越え、女性解放圏を宣布<br>「女性全体解放圏宣布」－女性連合出発 |
| | 4月9日 | モスクワ世界大会 |
| 1991年 | 9月1日 | 還故郷総動員宣布 |
| | 9月17日 | 「アジア平和女性連合」東京大会 |
| | 11月30日 | 真の父母北朝鮮訪問 |
| 1992年 | 4月10日 | 「世界平和女性連合」創設、NGO組織、世界女性時代の到来宣布 |
| | 7月3日 | 再臨主救世主真の父母宣布 |
| | 12月10日 | 開放直後統一圏再蕩減勝利宣布 |
| 1993年 | 1月1日 | 成約時代出発宣布 |
| | 4月10日 | 真の父母と成約時代宣布 |
| 1994年 | 5月1日 | 家庭盟誓宣布、協会創立40年 |
| | 5月3日 | 世界平和家庭連合会を創設 |
| | 7月26日 | 世界平和青年連合創設 |
| 1995年 | 8月23日 | 訓母様（金孝南）の長男・金賢辰氏（1977年生）を韓承運—洪順愛大母様家庭の養子として霊的に入籍（養子名；韓賢秀） |
| 1996年 | 7月30日 | 第1回世界平和家庭連合創設世界大会 |
| | 11月1日 | 世界平和家庭連合定着と蕩減解消宣布式 |
| 1997年 | 4月10日 | 統一教会を名称変更、世界平和統一家庭連合時代開幕宣布 |
| | 9月11日 | 第4次アダム権時代宣布 |
| 1999年 | 6月14日 | お母様表彰される。母子協助時代7年路程終了<br>世界80ヶ国巡回路程勝利 |
| | 9月9日<br>9時9分9秒 | 「長子権、父母権、王権」を天の前に奉献<br>「天地父母天宙統一開放圏」を宣布 |
| 2000年 | 11月11日 | 父子協助時代を越えていくことを宣布<br>（2000年1月5日と11月11日のみ言葉）—＞父子協助時代を出発 |
| 2001年 | 1月13日 | 「神様王権即位式」挙行（清平）－天一国宣布 |
| 2003年 | 2月6日 | 天一国開門祝福結婚式（二度目の結婚式） |
| 2004年 | 3月22日（旧） | 信俊様誕生 |
| 2005年 | 9月12日 | 天宙平和連合創設 |
| 2006年 | 6月 | 聖歌3番（日本4番）「栄光の賜物」を天一国国歌として制定 |

| | | |
|---|---|---|
| 2007年 | 5月1日 | お父様「お母様は2013年6月16日までに完成」するように言われた。 |
| 2008年 | 4月6日 | 第49回真の父母の日、(ハワイ、キングガーデン)<br>お父様は顕進様をカイン、国進様をアベルの立場として、お母様と共に3人が一つになったと言う特別な儀式を宣布 |
| | 4月16日 | 訓読会で「お父様は亨進様を後継者として任命された」<br>お父様「統一家において、信仰的に全ての面で亨進がすぐれている」 |
| | 4月 | 顕進様、家庭連合副会長職、W-CARP世界会長職を解任される |
| | 4月18日 | 亨進様、世界会長に就任(28歳) |
| | 7月19日 | ヘリコプター事故 |
| | 7月29日 | 顕進様、アメリカ総会長職を解任される<br>仁進様にアメリカ総会長職の発令状(亨進様の書名で) |
| 2009年 | 1月15日 | 亨進様、戴冠式(韓国)　「真の父母祝福」を伝授 |
| | 1月30、31日 | 亨進様、戴冠式(韓国、ニューヨーク)3度の戴冠式 |
| | 3月8日 | お母様「顕進は絶対性に問題がある」と言われる(天正苑)<br>お父様は顕進様に「1年間公的な活動を休んで、原理を勉強しなさい。私のそばにいなさい。」と言われた。そして、公職活動を一時中断するように命じた。(東草天正苑) |
| | 8月以降 | 顕進様はGPFを推進するために、UCIの理事を解任、理事会を掌握。<br>2009年半ばからみ言葉選集615巻(2009.8.23)を最後に出版を中断 |
| | 9月10日 | お父様は顕進様に「UCI」を元に戻しなさいと言われる。<br>顕進様は「分かりました」と言われたが、実行はされなかった。これが二人の最後の会話となった。 |
| | 12月10日<br>―14日 | 顕進様、お父様に手紙を書くも、公式許可を得られずフィリピンで大会を決行。 |
| 2010年 | | 「天地人真の父母定着」宣布 |
| | 6月5日 | 真の父母「異端者・爆破者宣布文」発表。お父様は「その代身者、相続者は文亨進である。他の者たちは異端者であり、爆破者である。」と宣言された。 |
| | 6月19日 | 午前2時20分、 2010年6月26日、午前3次25分<br>「真の父母様が横的に最終一体化をした」 |
| | 11月22日 | 「真の父母様ご夫妻は最終一体」 |
| 2011年 | 2月3日 | 「真の父母様ご夫妻は最終一体」 |
| | 12月11日 | 「すべての摂理の完成、完結、官僚と最終勝利を宣言」 |
| 2012年 | 1月1日 | 真の父母様の金婚式 |
| | 1月19日 | 「お父様の言う事は聞かず、私(お母様)の言う事を聞けと言うのは<br>ルーシェルより恐ろしい」とお父様はお母様を批判。 |

| | | |
|---|---|---|
| | 4月14日 | 「天地人真の父母定着実体のみ言葉宣布天宙大会」(ラスベガス)<br>特別宣布式(天和宮)－蕩滅の完全完了<br>「天地人真の父母定着実体のみ言葉宣布天宙大会を最終、完成、完結することをお父様の前に奉献します」と宣言。 |
| | 6月5日 | 4次元入籍式宣布(ラスベガス)<br>「国進、亨進様のアベル、カイン一体化を宣布」<br>「真の父母の仕事は完成、完結、完了」と言われる。 |
| | 9月3日 | お父様の聖和。<br>(結局、お父様はお母様が完成したと言われずに聖和された。) |
| | 9月17日 | 文亨進世界会長「基元節勝利のための統一教世界指導者特別集会」でお母様の勝利を宣言<br>「エバの堕落によって、失われた神様の娘、妹, 夫人、母、祖母、女王の立場をすべて復帰された。」と言われた。 |
| | 9月23日 | お母様のみ言葉の矛盾性<br>(お父様は8月13日に最後の祈祷をされたと言う虚偽) |
| 2013年 | 2月14日 | 亨進様、米国総会長を解任される |
| | 2月22日<br>(天暦1月13日) | お母様は基元節を基に「天一国元年」を宣布<br>(1977年2月22日、「天紀元年」を発表。<br>2010年2月14日「天基元年」を宣布。<br>三度目の聖婚式が行われるはずであった。－＞完成級<br>「天地人真の父母聖婚式」、「天一国基元節入籍祝福式」<br>(1960年、祖請求、2003年2月6日、長成級)<br>{2013年基元節出発に合わせて、「天一国経典天聖経」を発表。<br>統一教から「世界平和統一家庭連合」とする。神様の呼称を「天の父母様」宣布(2013年1月7日)、家庭盟誓変更。・・・} |
| | 3月24日 | 国進様、統一財団理事会決議で理事長職を解任される |
| | 春 | 国進、亨進様、天正宮から追放されアメリカのペンシルベニアへ<br>追放された原因—＞お母様「私は神である」と言われた事に対して、亨進様「お母様は勝利者です。しかし、神様ではありません。」 |
| 2014年 | 7月1日 | お母様の「独生女」宣言とお母様によるお父様の無原罪生誕を否定 |
| 2015年 | 3月6日 | 亨進様、世界会長を解任される |